5707

2027年3月期（FY2026）
第2四半期 決算説明資料

2026年11月13日

東邦亜鉛株式会社
TOHO ZINC CO., LTD.

本資料に記載されている計画については現在当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいております。

本日のキーメッセージ

1. **FY2026 2Q決算は、対前年を上回る結果で増収増益**

2. **FY2026 通期業績の見通しは下方修正、主に原料条件/調達環境悪化などにより貴金属の製造/販売の減少（仕掛品増加）および金属相場下落**

3. **足元、貴金属の製造/販売の強化を実施しており、仕掛品増加で収益化が遅れていた課題を解消していき、業績改善を目指す**

4. **事業構造転換の更なる強化で、中長期的な成長を目指す**
   -原料（鉱石）条件/調達の悪化を踏まえ、リサイクル領域の更なる拡大
   -回収元素拡大などの研究開発は順調に進捗

5. **事業再生計画の大きな方針に変更はなく、上記の通り改革を実行中**
   FY2027以降の再生計画の目標数値は、環境変化も踏まえ現在精査中

目次

1. 2027年3月期 2Q決算 P.3
2. 2027年3月期 通期決算の見通し P.10
3. 事業再生計画の達成に向けて P.18

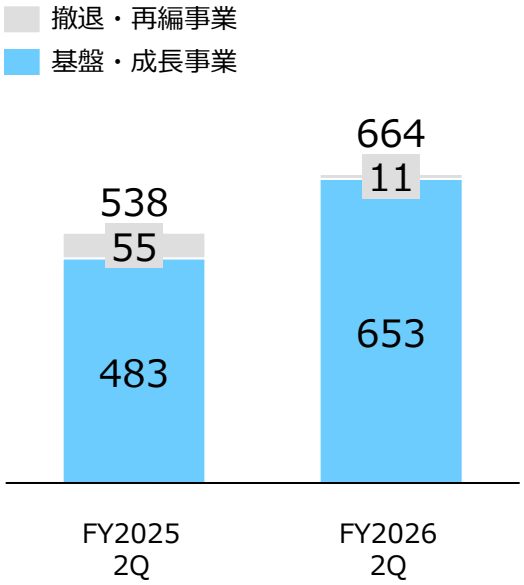
Appendix

2027年3月期（FY2026）2Q決算の前年同期比（段階利益）

対前年では増収増益、EBITDAは17億円、当期純利益は5億円の黒字となりました

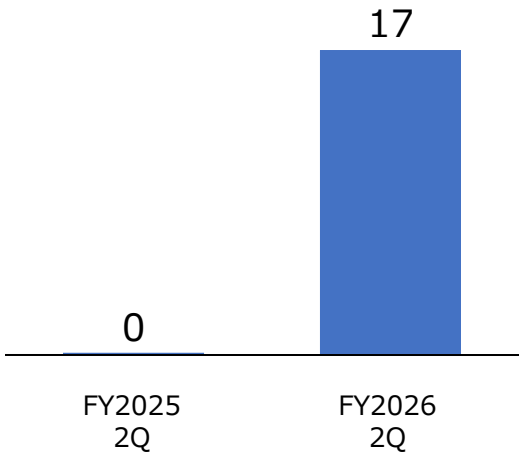
（億円）

売上高



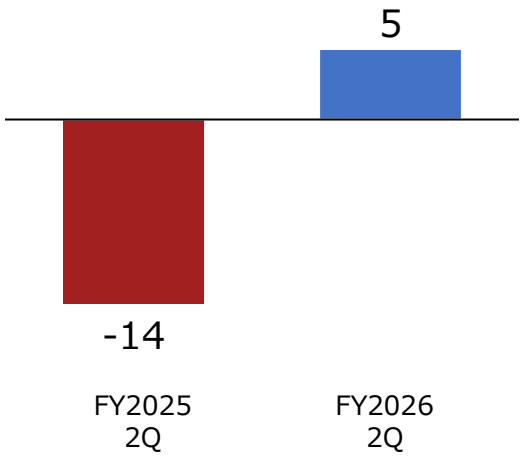
（前年同期比）
- 銀相場上昇による売上高増加↑
- 亜鉛製錬再編による売上減少↓

EBITDA



（前年同期比）
- 亜鉛製錬再編による銀含む保有資産売却の施策効果↑
- 繰延税金資産計上による税効果会計の影響によるプラス効果↑

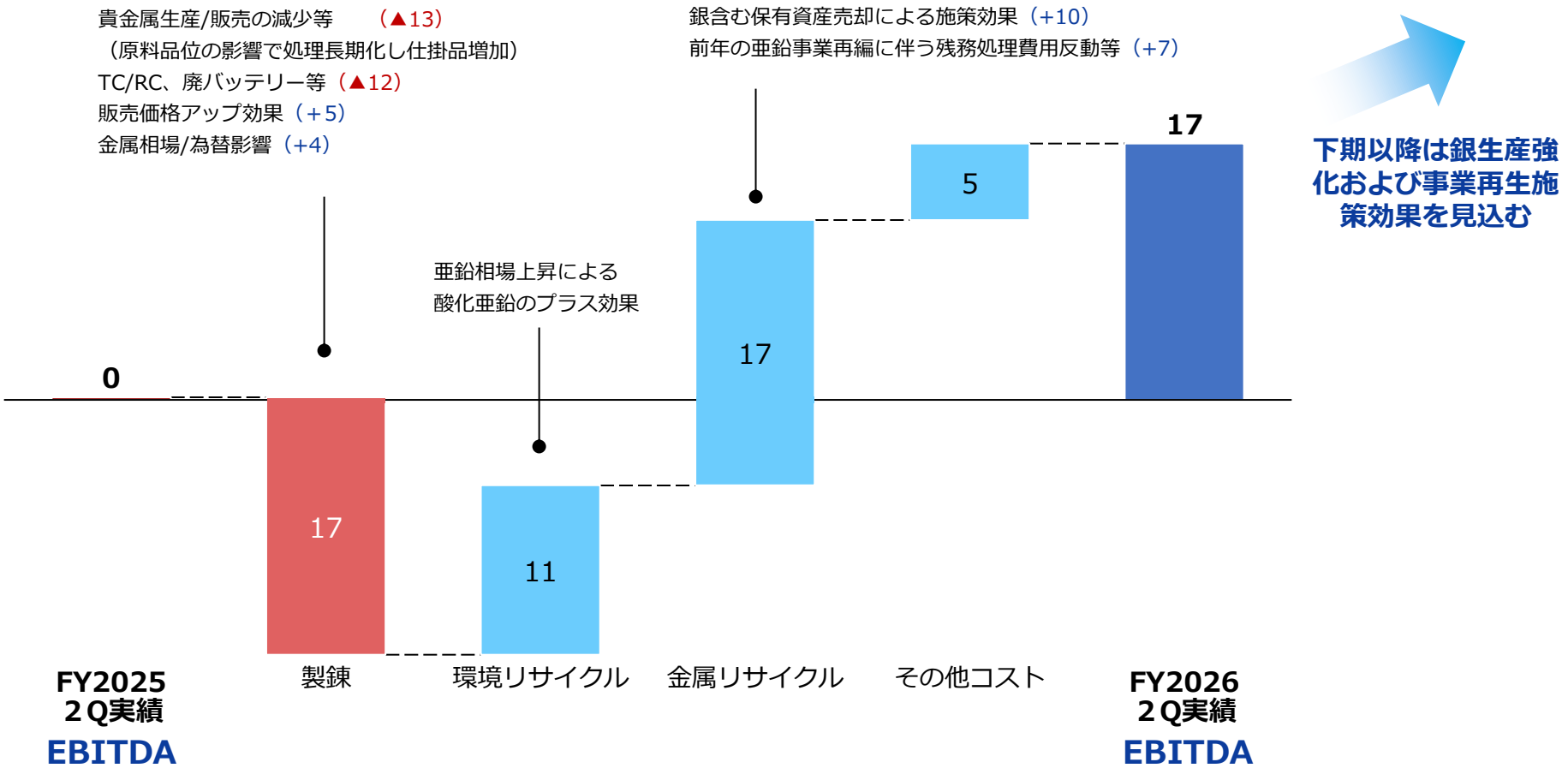
当期純利益



2027年3月期（FY2026）2Q決算の前年同期比（EBITDA）

製錬事業は苦戦も、他セグメントでカバーして全体としては17億円の黒字になり増益です

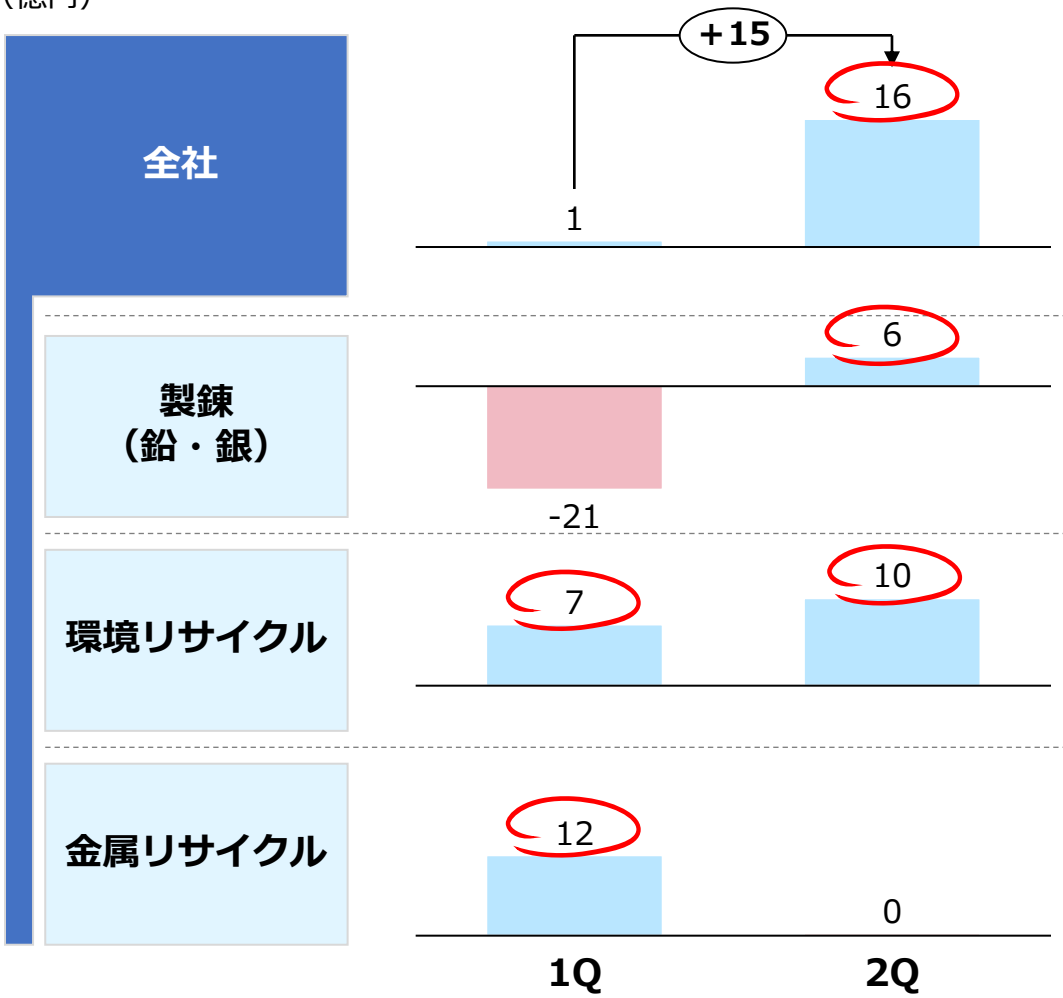
（億円）



2027年3月期（FY2026）各四半期の利益積み上げ（EBITDA）

2Q単体では黒字化。製錬事業の改善、環境リサイクルは順調に推移しております

（億円）



- 製錬事業のマイナスはあるが、金属リサイクル/環境リサイクル事業でカバー
- 2Qでは16億円のEBITDA確保

- 1Q→2Qは低価法の影響は改善
- 貴金属の製造/販売減少などの影響はあるが黒字を確保

- 1Q、2Qとも酸化亜鉛の安定供給、亜鉛相場の上昇もあり順調に推移

- 1Q→2Qは銀を含む保有資産売却の施策効果が1Qに寄与し、収益貢献

上記以外のその他で1Qでは3億円の数値を計上(2Qはその他の計上数値0億円)

2027年3月期（FY2026） 2Qの純資産状況

当期純利益の黒字化に加えて、BSの純資産ではヘッジ益が計上されている影響などで、
自己資本比率は改善しております

（億円）

項目	FY2023末	FY2024末	FY2025末	FY2026/2Q
純資産	**27**	**101**	**137**	**184**
総資産	**1,084**	**993**	**989**	**1,022**
自己資本比率	**2.5%**	**10.2%**	**13.8%**	**17.9%**
繰延ヘッジ損益	△15	△4	△16	5

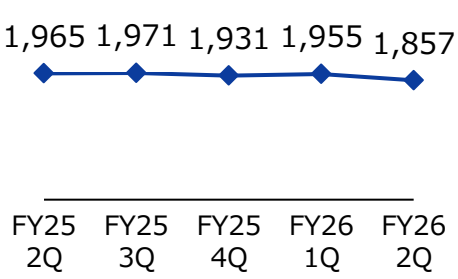
（参考） 直近1年の資源価格推移（ドル建て、円建て）

前年同期比(2Q対比)で、鉛価格はドル建てで下落も、円安傾向で円建て横ばい、銀価格はドル建て上昇、円安傾向も相まって円建てでも上昇しています（銀相場については足元は下落傾向）

鉛

鉛LME価格推移（ドル建て）

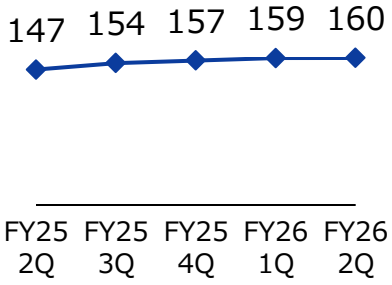
（ドル/トン）



×

為替推移

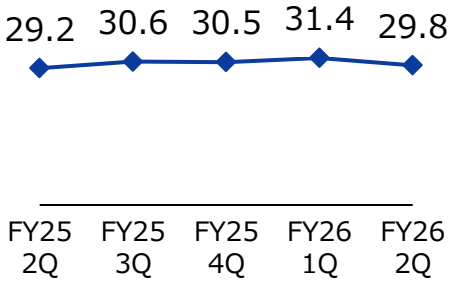
（円/ドル）



＝

鉛LME価格推移（円建て）

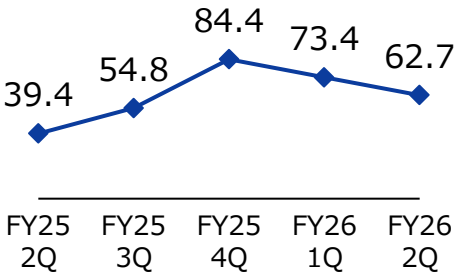
（万円/トン）



銀

銀LBMA価格推移（ドル建て）

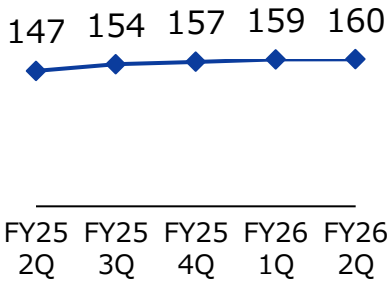
（ドル/トロイオンス）



×

為替推移

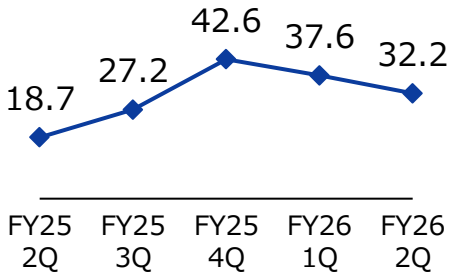
（円/ドル）



＝

銀LBMA価格推移（円建て）

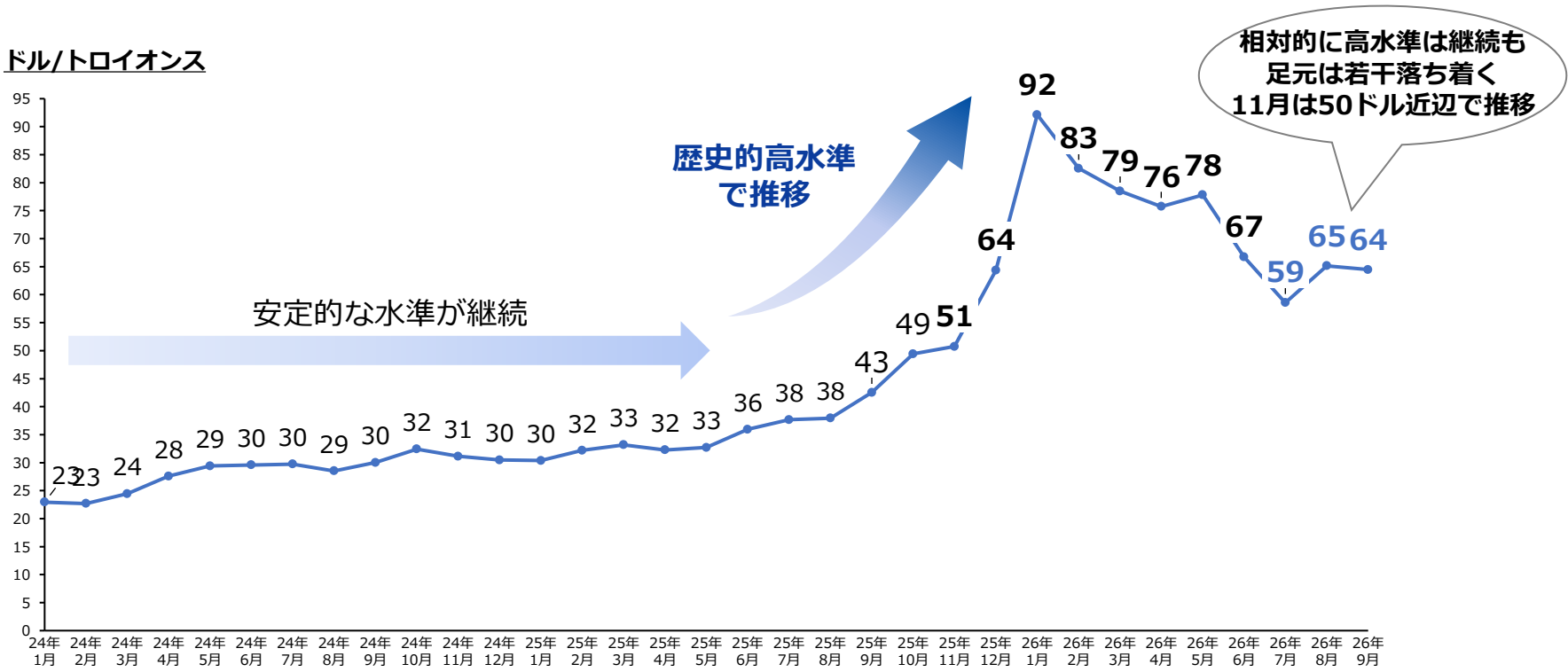
（万円/kg）



（参考）銀価格の推移

2025年9月より40ドルを超えて、1月の平均は92ドル、足元は相対的に高水準を継続も60ドル台と相場は下がってきている状況です（11月近辺は50ドルで推移）

銀価格（LBMA）の推移（1か月平均値）



目次

1. 2027年3月期 2Q決算 P.3

2. 2027年3月期 通期決算の見通し P.10

3. 事業再生計画の達成に向けて P.18

Appendix

足元の外部環境/内部環境

製錬（鉛/銀）事業を中心とした調達環境が悪化。貴金属の製造/販売に影響しております

変動要因			足元の状況	FY2026影響（対前期）
外部	鉛銀	貴金属相場	● 足元は昨年度より相場は落ち着くも金銀は高水準であり フリーメタルによる収益貢献期待（計画に対してマイナス）	＋
		TC/RC	課題 原料鉱石の調達環境の悪化。歴史的低水準が継続。 中国の精鉱需要が旺盛な影響でタイトな状況	－
		廃バッテリー	● 廃バッテリーの回収コストが高騰している状況	－
			● 足元は不適正ヤード規制強化により、鉛スクラップ・ 廃バッテリーの適正処理が進展	＋
		レアメタル相場	● 昨年度アンチモン相場高騰も、足元相場落ちつく （ビスマスは価格高騰も収益影響は相対的に小さい）	－
内部	操業		● 昨年度の操業トラブルの解消（契島/小名浜）	正常化
			課題 原料条件（鉱石の品位変化など）の影響などにより処理長期化 仕掛品増加、貴金属/レアメタルの製造/販売の減少	－

参考：主要な資源価格及び為替の想定と感応度

市況・為替について、直近の推移を踏まえて2027年3月期（FY2026）見通しの前提を設定しています。それらの収益に与える感応度は以下の通りです

	FY2026 見通し	FY2026 修正	感応度
鉛相場	**1,900** ドル/トン	**1,903** ドル/トン	100ドル/トン上昇の場合 経常利益 2.5億円/年増加
銀相場	**80** ドル/トロイオンス	**62** ドル/トロイオンス※	1ドル/トロイオンス上昇の場合 経常利益 0.6億円/年増加
為替	**160** 円/ドル	**160** 円/ドル	1円/ドル円安の場合 経常利益 1.1億円/年増加

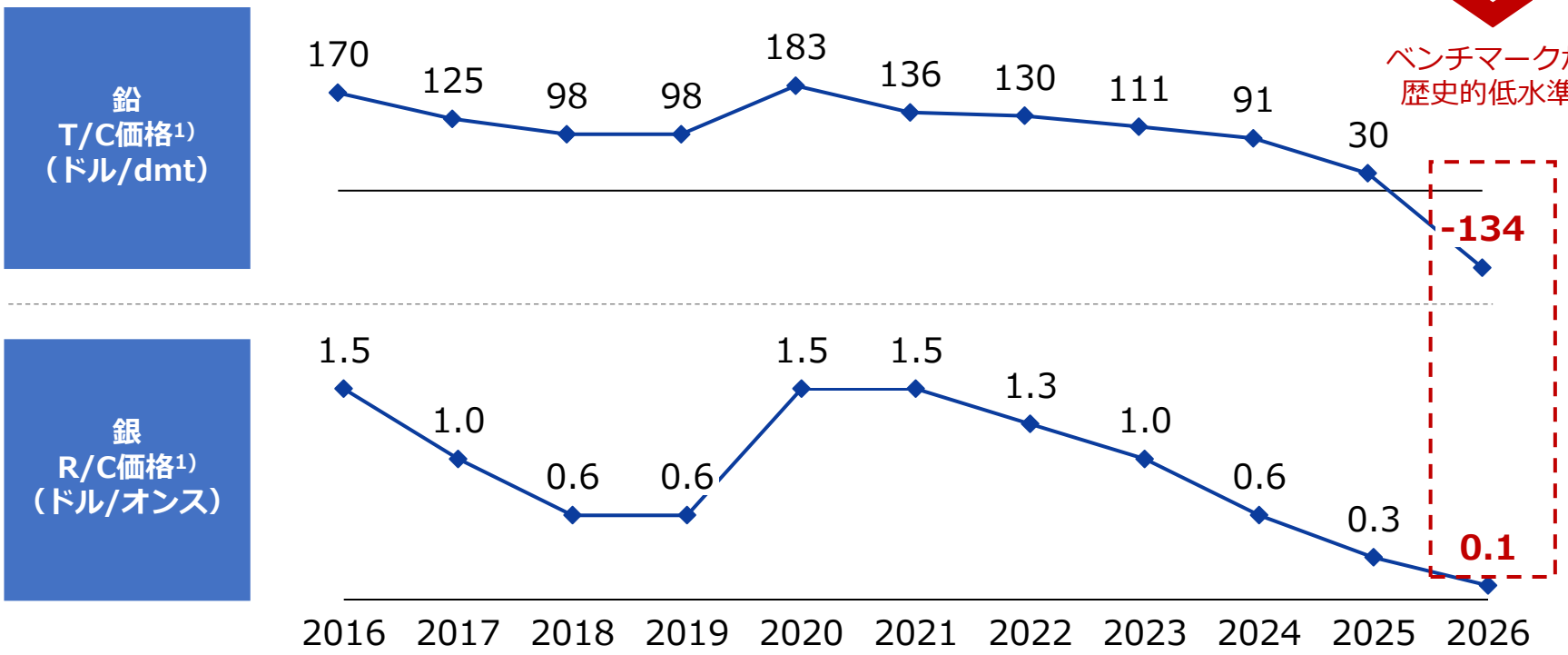
※下期から銀相場を55ドルで設定。通年では平均すると62ドル

参考：T/C,R/Cの長期推移

鉱山会社に対する製錬会社の加工費用を表すT/C（鉛）およびR/C（銀）はベンチマーク水準が歴史的低水準となっています。特にT/Cについてはマイナスの状況です

鉛T/Cおよび銀R/Cは鉱山会社と製錬会社の大手同士の交渉により
毎年ベンチマークが決まり、長期的には一定シクリカルとなっている
（当社がコントロールできるものではない）

中国の需給関係の不均衡により鉱石需要が増加



注１：Cannington Pb Conc Annual Benchmark term（高Ag BM）

足元のTC下落要因と今後の見立て

足元TCは下落しているが、副産物価格の一服、需給の改善によって下落圧力は低下する見立てとしております

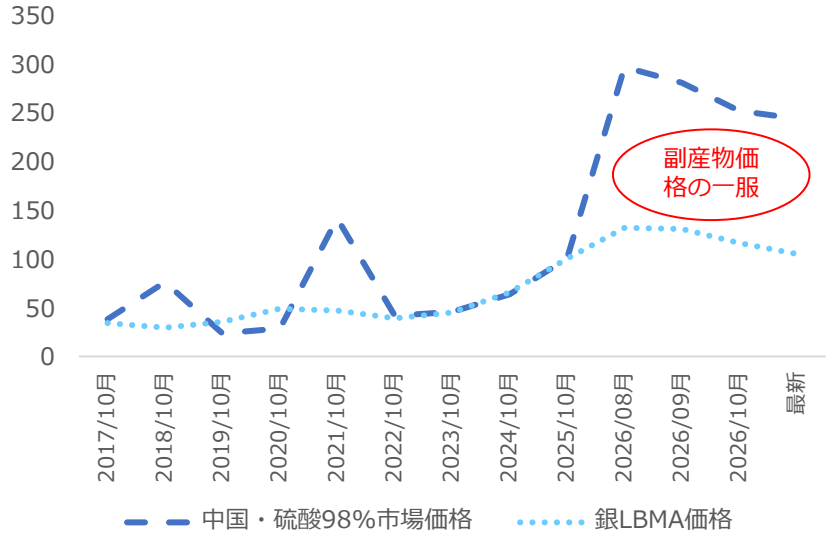
足元のTC低下要因

- 精鉱供給の減少
- 中国等の旺盛な精鉱調達需要
- 鉛鉱石からの副産物である銀・硫酸の価値上昇

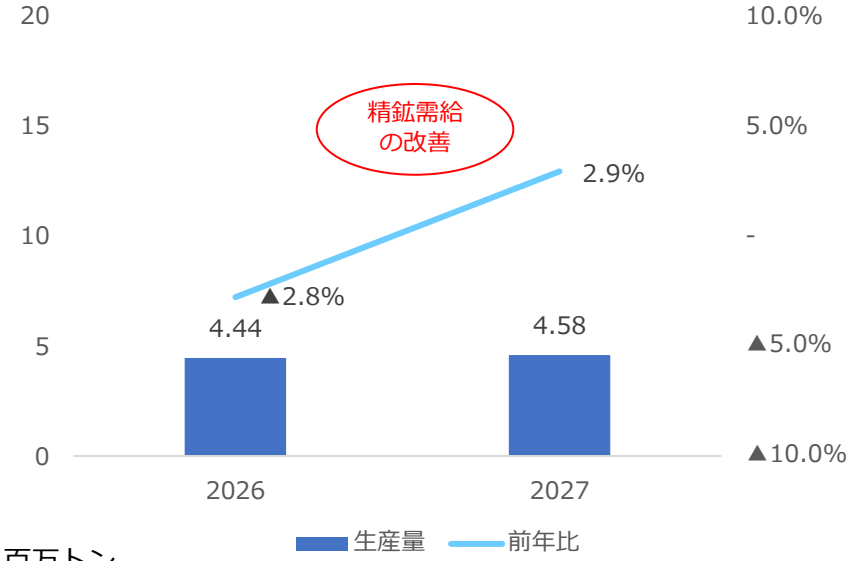
今後のTC改善の兆し

- 銀、硫酸相場の上昇が一服
- 2027年度以降の鉱山の増産見通しにより需給の緩和
- （中長期的）中国のリサイクル比率の拡大による原料構成の変化

2025年10月＝100とした際の硫酸・銀の相場



鉛鉱山生産量見通しと前年比



出所：中国国家統計局（NBS）、国際鉛亜鉛研究会（ILZSG）

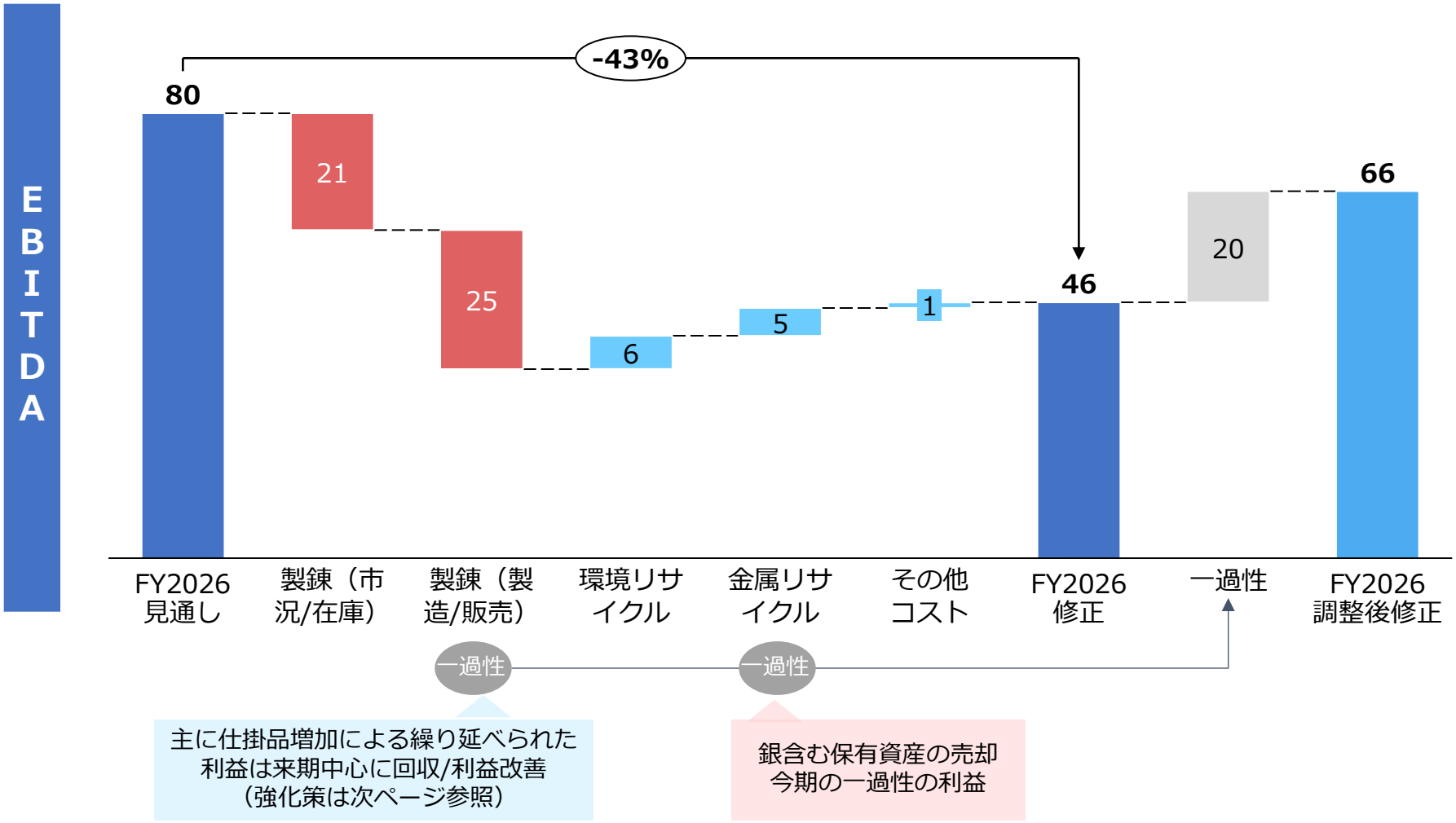
2027年3月期（FY2026）通期見通しの修正

FY2026見通しについては以下の通りに下方修正しております

（億円）	FY2026 見通し	FY2026 修正	前回 見通し差	前回 見通し比
売上高	1,785	1,310	▲475	▲26.6%
EBITDA	80	46	▲34	▲42.5%
経常利益	45	16	▲29	▲64.4%
当期純利益	35	8	▲27	▲76.8%

2027年3月期（FY2026）通期見通しの修正（見通し差）

下方修正の主な要因は以下の通りです。業績改善に向けて製造/販売の強化をしております



貴金属の製造/販売の強化

製錬所間の連携により足元の仕掛品を削減する活動を開始しています。これにより、仕掛品の削減と製造リードタイムの短縮が見込めます

仕掛品の量

2026年3月末 3,000t ▶ 2026年9月末 5,500t

広島県
契島製錬所

滞留仕掛品の発生元

滞留仕掛品は貴金属含む多種の元素を含み
契島のみでは処理長期化

仕掛品を送付

不純物の処理を行ったうえで返送

群馬県
安中製錬所

亜鉛事業再編に伴い
休眠・不稼働設備が存在

不純物の処理が可能

製造LT
短縮



電気銀



粗金

貴金属を中心に、今後の製造/販売を強化
来期の製造/販売については改善していく見込み

※仕掛品：製造途中でまだ製品になっていない在庫

目次

1. 2027年3月期 2Q決算 P.3

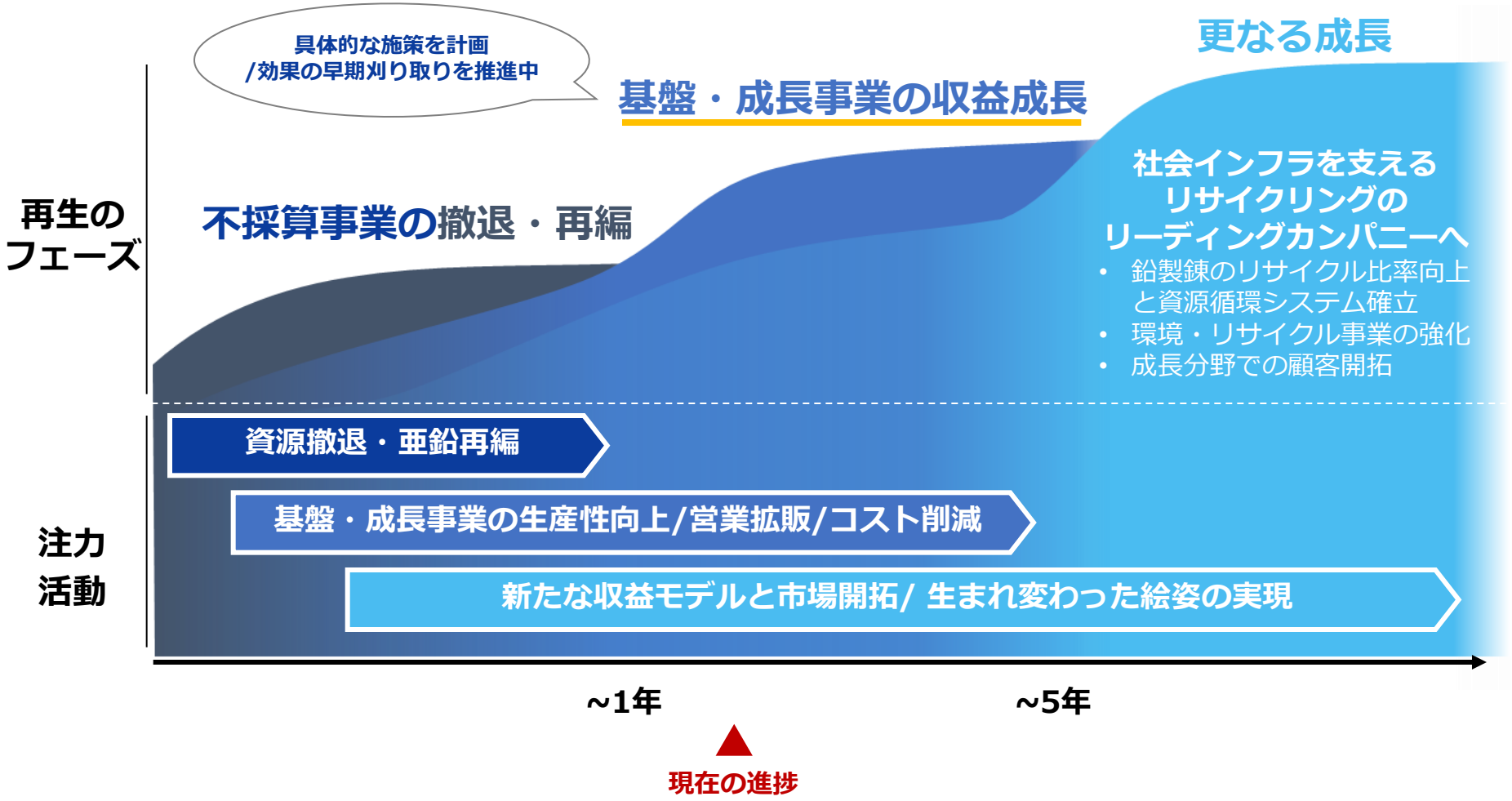
2. 2027年3月期 通期決算の見通し P.10

3. 事業再生計画の達成に向けて P.18

Appendix

事業再生計画の全体像

事業再生計画の全体骨子は不変。現状は基盤・成長事業の収益成長の取り組みを中心に計画化/効果の早期刈り取りを推進しております



事業再生計画におけるFY2026の方針について

基本方針と重点アクションを明確化して、メリハリのある計画の推進を目指しております

外部環境に依存しない
自らの力で収益を創出する基盤固めの1年

基本方針		重点施策（アクション）
不採算事業の撤退・再編	① **操業安定の徹底** -安全・安定操業の確立 -トラブル未然防止／再発防止	•維持更新投資による**操業安定化（DX投資）**
基盤・成長事業の収益成長	② **収益力の強化** -原料ベストミックスの高度化 -二次原料からの有価金属回収強化	•**二次原料（金銀）調達拡大**による収益改善 •**鉛バッテリーの回収量増加・交渉力強化**
	③ **全社構造改革の加速** -施策効果による改善の積上げ -低収益事業・資産の見直し	•**金属リサイクル事業の再生**PJの推進 •**貴金属/レアメタル回収の強化**（湿式製錬） •**不採算事業・資産の整理**
更なる成長	④ **投資テーマの検討強化** -事業の競争力強化投資の検討推進 -非連続な成長を見据えた機能強化	•**戦略投資/M&A戦略の強化**

事業構造転換（マテリアリティとも連動した重点ポイント）

マテリアリティとも連動させた事業構造転換を実行し、足元の業績改善、中長期的な成長の実現を目指します

マテリアリティ	KPI	FY2025実績	FY2030目標
1 限りある資源の最大活用（リサイクル強化）	● 鉛製品のリサイクル原料比率	47%	60%以上
	● リサイクル原料からの亜鉛製品化率	44%	80%以上
2 製錬技術の深化と新領域への挑戦	● 回収元素・有価物数	8種類	12種類以上
	● DX改善テーマ着手数（累計）	14テーマ	200テーマ以上

足元の業績改善に加えて、中長期的な成長を実現

マテリアリティに関する詳細は、統合報告書をご覧ください。こちらをクリック

事業構造転換 ❶リサイクル強化

リサイクリングを強化し、原料（鉱石）条件悪化にも対応できる収益モデルを確立します

事業	取り組みテーマ	取組み施策/内容
製錬	**廃バッテリー回収強化**	• **廃バッテリーの処理ラインを増設し、従来回収できていなかったエリアについても強化**
金属リサイクル	**安中設備の有効活用による有価金属回収**	• 安中における**既存設備の有効活用**を行い、 • 滓類などの**リサイクル原料から粗酸化亜鉛を回収**するなど**リサイクル事業の強化**
環境リサイクル	**リサイクル原料活用の酸化亜鉛**	• **100%リサイクル原料を活用し酸化亜鉛の安定供給** • **足元は亜鉛相場の上昇もあり収益の柱として貢献**

事業構造転換 ❷回収元素拡大（研究開発）

FY2025より安中製錬所においてMn（マンガン）製錬の試験研究を開始、量産化に向けた技術的なハードルをクリアし、今後は商業化に向けたコスト競争力の確保に移行する予定です

完了		2030年度以降を想定
STEP1	STEP2	STEP3
試験研究・量産化試験 安中製錬所にて実施	**実証実験・コストダウン・スケールアップ** 商業化に向けた最適化、販売先の探索	**商業生産** 採算性の確保・事業化

また、東京大学が主宰する**「東京大学レアアース泥開発推進コンソーシアム」**に参画
レアアースの製錬過程で生じる残渣等の処理、マンガンノジュールの処理等について、技術協力を行っていく予定

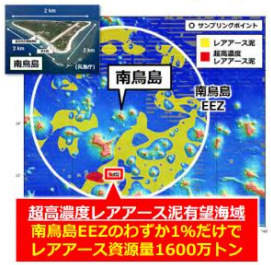
当社が特に注力するテーマ

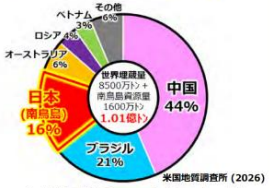
レアアース泥 東大チームが発見して命名

2011年、世界で初めて太平洋で「レアアース泥」を発見
(Kato et al., 2011 *Nature Geoscience*)

2012年、南鳥島EEZで「レアアース泥」を発見
(加藤泰浩, 2012 資源地質学会講演会)

2018年、有望海域の資源量の可視化に成功
(Takaya et al., 2018 *Scientific Reports*)



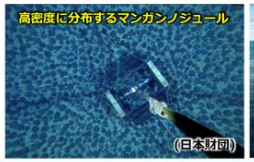


有望海域（EEZ全体のわずか1%）だけで、世界第3位の「レアアース大国」

マンガンノジュール 東大チームが発見

バッテリーメタル（Co、Ni）の海底鉱物資源

2024年、日本財団と共に「マンガンノジュール」が高密度で分布する有望海域を特定
(日本財団・東京大学プレスリリース, 2024.6.21)







2027年に、欧米企業2社と連携して環境インパクト試験（マンガンノジュール揚鉱試験）を実施予定

出所：「東京大学レアアース泥・マンガンノジュール開発推進コンソーシアム事務局提供資料」

事業再生計画の方針に変更はなく

足元の貴金属の製造/販売によるマイナス影響は

来期からは改善されていく見込みです

事業構造転換のスピードを上げて

足元の業績改善と中長期的な成長の実現を目指します

目次

1. 2027年3月期 2Q決算 P.3
2. 2027年3月期 通期決算の見通し P.10
3. 事業再生計画の達成に向けて P.18

Appendix

2Q実績・比較

		FY2025/2Q	FY2026/2Q	差（実額）	差（%）
市況					
鉛	US$/t	1,955.8	1,905.9	(49.9)	(3%)
銀	US$/oz	36.5	68.1	31.6	86%
円/米ドル		146.0	159.5	13.5	9%
製錬セグメント主要製品生産量					
鉛製品	千t	40.3	40.5	0.1	0%
電気銀	t	109.4	93.9	(15.5)	(14%)
収支					
売上高	億円	538.3	664.5	126.2	
営業利益	億円	(6.7)	9.1	15.8	
EBITDA	億円	0.2	16.7	16.5	
経常利益	億円	(11.8)	4.3	16.2	
製錬	億円	(1.8)	(18.6)	(16.8)	
在庫評価損益	億円	(6.4)	(6.7)	(0.4)	
その他	億円	4.6	(11.9)	(16.4)	
環境・リサイクル	億円	3.4	14.5	11.1	
電子部材・機能材料	億円	1.9	0.7	(1.2)	
金属リサイクル	億円	(8.1)	9.3	17.4	
資源	億円	0.0	0.0	0.0	
その他	億円	0.9	1.8	0.9	
調整額	億円	(8.1)	(3.4)	4.8	
当期純利益/損失	億円	(13.5)	5.2	18.7	

四半期単体実績

		FY2025 1Q	2Q	3Q	4Q	FY2026 1Q	2Q
市況							
鉛	US$/t	1,946.8	1,964.8	1,970.8	1,931.4	1,955.0	1,856.7
銀	US$/oz	33.6	39.4	54.8	84.4	73.4	62.7
円/米ドル		144.6	147.5	154.2	156.9	159.5	159.6
製錬セグメント主要製品生産量							
鉛製品	千t	19.7	20.6	24.7	16.5	20.7	19.8
電気銀	t	44.5	64.9	74.8	63.9	41.0	52.8
収支							
売上高	億円	268.7	269.6	362.7	354.5	311.0	353.4
営業利益	億円	(8.5)	1.8	35.9	38.1	(2.5)	11.6
EBITDA	億円	(5.1)	5.3	39.3	41.8	0.8	15.9
経常利益	億円	(10.8)	(1.0)	32.9	35.7	(5.8)	10.1
製錬	億円	(4.2)	2.4	19.1	20.6	(24.8)	6.2
在庫評価損益	億円	(6.0)	(0.3)	9.4	1.8	(22.0)	15.3
その他	億円	1.8	2.8	9.7	18.8	(2.8)	(9.1)
環境・リサイクル	億円	2.4	1.1	1.0	4.7	5.8	8.7
電子部材・機能材料	億円	0.7	1.2	0.8	1.9	0.7	(0.0)
金属リサイクル	億円	(6.8)	(1.3)	14.0	8.6	10.6	(1.3)
資源	億円	(0.2)	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	億円	1.3	(0.4)	0.8	0.6	1.3	0.5
調整額	億円	(4.1)	(4.0)	(2.8)	(1.5)	0.7	(4.0)
当期純利益/損失	億円	(11.1)	(2.4)	30.9	30.5	2.6	2.6

MSワラントの行使状況（2026年9月末までの累計）

現状の新株予約権の行使割合は63%の状況です

銘柄名	**東邦亜鉛株式会社第1回新株予約権**
新株予約権総数	35,000個
行使された新株予約権数	22,060個
行使割合	63.03%
未行使新株予約権数	12,940個

FY2026のIR発信について

企業価値向上を目指して新しい取り組みも強化していきます

主なIRの発信

- 4月7日　（火）　社長交代、社名変更、ミッション/ビジョン/バリューのリリース
- 5月14日（木）　FY2025 期末決算発表
- 5月23日（土）　個人投資家向けIRイベント
  第1回 ダイヤモンドIRフェア2026 - 未来を読み、企業を選ぶ 価値ある投資の第一歩 -
- 6月26日（金）　株主総会
- 8月14日（金）　FY2026 1Q決算発表
- 9月29日（火）　統合報告書の発行
- 11月13日（金）　FY2026 2Q決算発表
- 12月上旬予定　個人投資家向けIRイベント（web）
- 2月中旬予定　FY2026 3Q決算発表
- 2月下旬予定　個人投資家向けIRイベント（対面）
- 5月中旬予定　FY2026 期末決算発表

※事業再生計画におけるFY2027以降の目標数値については決算発表のタイミングで都度発信予定

社名を変更し新たな成長フェーズへ（2027年4月1日より社名変更予定）



足元の貴金属の上昇に乗った収益確保に加えて、
インフレ、為替変動、原料調達の変動、その他様々な環境変化に
依存しない事業構造の転換を実現していく

ベースメタルからレアメタル・貴金属まで幅広く金属を取り扱う事業領域
において競争力を強化し、新たな成長ステージへ向かう

東邦亞鉛株式会社
TOHO ZINC CO., LTD.